

## オステオパシーマニピュレーション治療直後に報告された有害事象の特徴づけ

**Brian F. Degehnhardt, DO; Jane C. Johnson, MA; William J. Brookds, DO; Lisa Norman, BS**

### 抄録

背景：様々なマニュアルセラピーの有害事象は先に検証されているものの、オステオパシーマニピュレーション治療(OMT)後に生じる有害事象の発生率や種類に関してはあまり知られていない。

目的：OMTにより引き起こされた有害事象を特定しやすいよう、OMT後から診療室を出る前の間に患者が報告した有害事象の発生率を数量化し、またそれらの種類を特徴づけること。

方法：OMTの適用ならびに効果を検証する前向き研究の一環として、患者はOMT直後にどのように感じたかを5ポイントの一般的な評価スケール(大きく改善、改善、同じ、悪化、大きく悪化)を用いて評価した。コンディションに変化があったことが示唆された患者は、フォローアップの開放的質問によりどのように変化したかを記述するよう依頼された。患者の記述に基づき、2人のレビュアーが個別に有害事象の種類をコード化した。一般化ロジスティック回帰モデルが有害事象の種類に対する発生率、ならびに95%信頼区間(CI)を計算するのに用いられた。また同モデルが有害事象と人口統計的特徴、ならびに人口統計的特徴を考慮した後での個別のOMTテクニックとの相関性に対するオッズ比(OR)ならびに95%信頼区間を計算するのに用いられた。

結果：OMT直後、884人(女性663人[76%]、白人794人[92%])；平均[SD]年齢51.8歳[15.8]が1847の来院においてデータを提供した。患者は45回の来院においてOMT直後に悪化または大きく悪化したと報告し、有害事象の発生率は2.5%であった(95%CI, 1.3%-4.7%)。疼痛/不快感が最も頻繁に認められた有害事象の種類であった(16[0.9%]；95%CI, 0.5%-1.6%)。有害事象の種類を決定する

のに十分な情報が得られなかった来院が 20 回あった。男性より女性がより頻繁に有害事象を報告した(OR, 13.9; 95%CI, 1.7-115.6; p=.01)。

結論：疼痛/不快感が最も頻繁にみられる OMT 直後の有害事象の発生率は、以前他のマニュアルメディシン分野から報告されたものより低いものであった。重篤な有害事象の発生率、ならびに OMT に続く数日間に生じる有害事象について調査する為にさらなる大規模研究が必要である。

原論文

Characterizing Adverse Events Reported Immediately After Osteopathic Manipulative Treatment

Brian F. Degehnhardt, DO; Jane C. Johnson, MA; William J. Brookds, DO; Lisa Norman, BS

J Am Osteopath Assoc. 2018; 118(3): 141-149

翻訳者：江熊省吾 Bsc.(Hons.)Ost.Med. D.O.(UK), MRO(J)

